

---

# ヒル魔が看病！？

紅瑠実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヒル魔が看病！？

### 【Nコード】

N6938F

### 【作者名】

紅瑠実

### 【あらすじ】

まもりが風邪を隠そうとしたが失敗ヒル魔がまもりの看病

**（前書き）**

少し甘い感じですが、駄作でもいいよという石丸なみの心の持ち主は  
進んでください

今日は朝からまもりがちかづかねえ  
絶対2m位はあけてる。

俺何かしたか？

今日はいいつの誕生日じゃねえし  
昨日もちやんとメールしたし  
思い付かねえ

じゃ俺のせいじゃねえのか？  
それならよけい分からねえ！

それなら本人に聞くしかねえな。

「おい糞マネ何か隠してねえか？」

「な、なにもないわよ。」

絶対何か隠してるな！

「言えよ！」

「嫌よ」

何だなにを隠してる？

表情から読み取れ！

頭をまわせ！

何を考えてるんだ

分からねえ！

俺は好きなやつを考えてる

事も分からねえのか？

最悪だな。俺

「ヒル魔くん私は大丈夫だから」  
フラッ

まもりがヒル魔の方に倒れて来た  
「どうした？」

ヒル魔にまもりが抱き付いて来た

「熱あるじゃねえか!？」

ヒル魔はまもりを抱えて部室から出て部員達に先に練習してると言つて40ヤード5秒1ぐらいのスピードで保健室に運んだ。

保健室には誰もいなかった

ヒル魔はまもりをベットに寝かした。

「大丈夫か？」

「ゴメンね…試合前なのに本当ゴメン」  
そんなことで…

家で安静にしてるほうがいいだろう  
連れて帰ろう!

ヒル魔は部室にこんな手紙を残した

糞野郎共

放課後はランニングしてからいつもの練習してる!俺はいけねえがさぼるなよ  
ケルベロスにさぼったやつは喰つていいぞ  
ぞつて言つてある。さぼるなよケケケ  
悪魔の番人には気をつける。ケケケ

ヒル魔

大急ぎでパソコンで打って印刷して机に貼り付けた。

まもりのかばんを持ってまもりを抱えて走った。

まもりの家に着くと鍵がかかっていた。

「鍵どこだ？」

「お母さんが帰つて来ないとないの」

「チツしかたねえ」

舌打ちしてからまた走ってヒル魔は

自分の家に向かって走った。

ヒル魔の家にまもりは行った事ない。  
ヒル魔は自分の家に人を入れた事がないのだが今はそんなこと言ってる暇はない。

5分も走るとついた。

ガチャ

鍵を開けて入った

まもりを自分のベットに寝かしてから薬を探していると

前まもりに家に渡された救急箱があつた。箱を開けるといろいろな薬がある。使えそうな薬を選んで水をくんでまもりが寝ているベットへ行つた。

「薬飲めるか？」

「ありがとう」

まもりは薬を受け取って飲んでからまた寝た。

ヒル魔はまもりが寝てもまもりから離れずパソコンをしていた。

少しするとまもりがうなされていた。

「うつうつ」

「大丈夫か？」

まもりは汗をかいている

「まもり大丈夫か？」

はつまもりが起きた。

「はあはあ」

息がとても荒い。

「行かないで」

まもりは起きてすぐヒル魔の手を握った。

「どうした？」

まもりは涙目だった

「ヒル魔くんがアメリカに行っちゃう夢見たの」

「大丈夫俺はどこも行かねえ」

安心したのかまたベットに横になった

「何か欲しい物あるか？」

「水ちょうだい」

まもりは弱りきった声で頼んだ

ヒル魔はまもりに水をくんで上げた

熱を計るとまだまだ熱があつた

まもりは口を開けて頼んだ

「ヒル魔くん私の抱き枕になつてくれないかしら？」

「オヤスイゴヨウ！」

隣に寝てまもりに抱き付いた

まもりはすぐに寝息をたてながら寝た

ヒル魔もそのあとすぐに意識を手放した

（後書き）

またまた駄作ですみません。文句は残念ながら受け付けません。すみません



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6938f/>

---

ヒル魔が看病！？

2010年10月16日00時39分発行